『グローバル資本主義の物語』について

倉田　稔

はじめに
1．本書の内部問題
　1．削除部分
　2．了承なしに変更・削除されたもの
　3．一般的に
2．本書の前後
　1．「ハプスブルク帝国に似ているEU」
　　（『信濃毎日新聞』「本の森」欄　1999年4月11日）
　2．『緑丘』にのせたもの
　3．道新記事
3．付け加えたいもの
　1．ユダヤ人陰謀説
　2．後進国の資本主義発展
　3．三浦綾子
　4．広瀬隆
4．訂正

はじめに

小生は，『グローバル資本主義の物語』（日本放送協会出版　2000年）を出した。その際，いくつかの文を初めの原稿から削除した。初めは，校正上の理由から削除提案されたのかと思った。しかしすべてがそうでもないと思うようになった。以下，削除部分を示す。校正上の理由と，そうでもない理由との2つがあると思える。校正が1回だけだったので，私は復活ができなかった。これらを1，で指摘する。2，では，本書の誕生の理由となった記事，本書の狙い

のいくつか，それに対する新聞記事の対応を，紹介する。最後に，3として，本書に入れたかったことを書く。

1．本書の内部問題

1－1．削除部分

1－1－1．最後のエピローグの部分で，一部分を，削った。本論で十分述べているからという理由であった。その部分を記しておく。以下，番号，ページ数，行数の順で記される。

さて二〇世紀を振り返りたい。ベトナム戦争はやらなくてもよかった戦争だと，当事者は，後になってから言った。ベトナム人が飛行機に乗って，アメリカまで戦争をしに行ってはいないのだから，アメリカには戦争の権利はないのだ。犯罪的な大戦争をしたアメリカは，なぜ裁判をされなかったか。それどころではなかった。ヴェトナム戦争を指導したキッシンジャーはノーベル平和賞を貰い，マクナマラ長官は世界銀行の頭取になった（本多『ベトナム……』）。アメリカ人は，ベトナムが失われたと，とんでもないことを言う。自分の所有から失われたという意味である。以前は，ベトナムを「持っていた」のだ。つまりアメリカは古代ローマ帝国の意識を持っている。これを捨てないかぎり，アメリカの未来はない。

平和のために戦争をするのだとアメリカ人は言い，その平和のための戦争（＝国際協力）をなぜしないのだと，アメリカ人は日本人を怒る。これは語るに落ちた論理である。つまり戦争をせよということだからである。「平和の輸出は必ず戦争を意味する」「パックス・エコノミカに反対する人は，平和の敵」とされた，とイリイチは，『シャドウ・ワーク』で言う。いつの世にも十字軍があるのだ。だが平和や民主主義を政府は輸出できない。

人口爆発にたいして，第三世界の人は，自発的に産児調節をする必要もある。ただし，南北の格差固定化を打破した社会が作られるべきである。

民主的な代議制度がない国は，結局うまく行かない。だから，ファシズムや「社会主義」は，うまくゆかない。まして軍事独裁政権は一層うまく行かない。しかしアジア，アフリカ，ラテン・アメリカの諸国では，軍事独裁政権がいつも成立する。多くの国で議会制度が確立してもいないし，意味も理解されていない。しかしドイツのワイマール時代でさえもまだドイツ国民は十分議会主義に慣れていなかったのであるから，将来を悲観すべきではない。

非民主主義国で社会主義革命を起こしても駄目である。非民主主義国は社会主義によっては民主主義にならない。社会主義革命を起こしたら，一〇年ほど単に民主主義の変革だけを徹底的に行なって，その後，自主的に政権を降りるというのが一番よい。一〇年たつと，官僚化するからである（注）。

（注）マルチネ『五つの共産主義』岩波新書。

１－１－２．第３章と重複するというので，削除したもの。

財閥には，超巨大財閥と巨大財閥とがある。超巨大財閥は，アメリカでは，モルガン，ロックフェラー，ヨーロッパではロスチャイルド，新ロスチャイルド＝ゴールドスミスである。これらが，ほとんど全世界を経済的に支配している，したがって政治的にも，ジャーナリズムの上でも，意識・思想の上でも，支配している。彼らは，巨大財閥を従えている。超巨大財閥だけでは全世界を支配できない。巨大財閥が超巨大財閥を助けるように仕組み，支配する。このグループの間にはすべて閨閥が作られている。

１－１－３．その場の主旨からはずれるというので，削除したもの。

18ページ　８行。

アメリカの政治家や実業家は自由主義や民主主義を守れと言うが，彼らは守るつもりはない。アメリカの実業家は富と利権を守りたいだけである。政治家は実業家の代弁人である。アメリカではむしろ実業家自身が政治家になっている。また，アメリカはCIA（中央情報局）を使う。これは本来は世界的に情報の網を張る組織であるが，暗殺・クーデタをも行なう。

1－1－4．30ページ　2行

その上，日本では労働者とは，庶民には，あまり良い意味で使われていない。……，たとえば道路・鉄道路線，その他，土木工事を行なう，真っ黒になって泥だらけで働く人々をさす。……左翼の人が言うように，世界や社会を変革する未来をつくる階級としては庶民には理解されていない。

1－1－5．30ページ

さて最終の問いである。プロレタリアートは革命的だろうか。マルクスとレーニンには政治理論の差がある。レーニンの『なにをなすべきか』では，革命的インテリゲンチャが革命思想を外から注入すると語られている。マルクスはこれほどはっきり語っていない。労働者階級が革命的であるとは，レーニンもそれほど語っていないのである。労働者は民主主義的革命を行なうけれども，社会主義革命を行なうわけではない。

1－1－6．本の流れからはずれるというので削除したもの。

127ページ。ユーロ・コミュニズム

ユーロ・コミュニズムとは，一九七五年に言葉ができ，それはさしあたり，イタリア，スペイン，フランスの三つの共産党を中心とする運動であった。しかし，それらの戦術を採用する各国共産党もそれに含まれる。社会主義国でなくまた高度に発達した資本主義の共産党の戦術である。これらの戦術は，1，議会を通じての革命，2，民主主義的な社会主義の建設，3，自主独立の立場，である。もっと具体的に言えば，統一戦線による多数者の革命，自由と民主主義の宣言，プロレタリア独裁の放棄，歴史的妥協，社会主義での複数政党制と政権交代制，ソ連・東欧型社会主義の拒否，各国党の平等，などである。

だが問題は，人類の歴史で社会主義的平和革命は一度も成功していないこと，ソ連・東欧はこれを激しく拒否していることである。この時代はブレジネフ時代であった。しかし，ユーロ・コミュニズムの戦術でないと，ヨーロッパや高度に発達した諸国では，全くやってゆけない。チリのクーデタの直後，ユーロ・

コミュニズムのイタリア共産党書記長ベルリングェルは，将来このような場合は，新政権を放り投げることも考えた。そして一九七三年，ベルリンゲルの「歴史的妥協」が発表された。ファシスト党を除き，すべての党を含めた国民的連合政権をと。国内ではキリスト教民主党との妥協を説いた。

イタリア共産党は，一九八九年，共産党の組織原則と思われていた民主主義的中央集権制を放棄した。これは世界の共産党を驚ろかした。実際は，この制度は，その民主主義を保障していなかった。例えば，党内自由立候補・下部からの自由推薦を保障していなかった。また自由選挙でなく，上から決めた候補者の信任制であった。だから共産党は，事実上，上意下達の組織となってしまった。イタリア共産党は，このために社民化したと言われた。しかしむしろNAT0を認めたことが，社民化した理由としてあげられるべきである。

１－１－７．192ページ　５行から

ヨーロッパとアメリカでは，自国民はいい職場にいる。銀行，薬局，経営者，家主，教師，官僚，重役，医者，弁護士になっている。自国民は，いい給料，長い休み，短時間労働をしている。工場でなく事務所におり，条件のよい職場には外国人はいない。第一世界で自国民はホワイト・カラーになる。一方，実際の労働は外国人にやらせ，安い賃金で働かせる。道路掃除，雪かき，家事手伝い，売子，道路建設，建築，スーパー，運転手，工場労働，レストランの皿洗い，ウェイター，看護婦，掃除婦，ベビー・シッターであり，肉体労働である。外国人はブルー・カラーになり，不安定労働力になる。彼ら外国労働者の多くは，ヤミ労働である。市民権をもつか，労働許可証をもたないと，正規には働けないし，統計には出てこない。外国人は，おいそれと良い職につけるわけではない。新参者であり，ヨーロッパの言葉をよく話せず，市民権や労働許可証，ビザも簡単にはとれず，民族差別もある。……

第二次大戦後，ヨーロッパの経済成長で労働力が必要になった。現在政府高官も，ヨーロッパでは特別の労働者がまだ不足している，と語る。ヨーロッパは外国労働者を必要としている。実は肉体労働者である。ヨーロッパ人が嫌が

ってやらない職である。

第三世界から，膨大な移民がやってくる。彼らには経済難民もいる。もともと多くの外国人がいたのに，それに輪をかけている。その上，東欧・ロシアの変革で，東方から移民が流れ込んだ。原因は経済生活である。ヨーロッパはこうして新しい移民時代を迎えている。東欧からの労働者が，安い賃金で，税金を払わないヤミ労働をする。一九八九年と九〇年の東ヨーロッパの変革では，多くの国から移民が，特にまずウィーンに殺到した。ウィーンではそれまでユーゴスラビアやトルコの労働者が多かったが，それに加えてチェコスロヴァキア，ハンガリー，ポーランド，ルーマニアから人々が流れ込んだ。変革期に二万人がアルバニアから失業の国イタリアへいった。ポーランドで，ロシア人の移民を何倍も安い賃金で働かせている。そのポーランド人がウィーンでは半分の賃金で働いている。

移民は，ヨーロッパの市民権や労働許可証をとろうと努力する。例えば，オーストリアの市民権は九〇年時点で，男性がオーストリア女性と三年結婚していればえられる。移民女性もオーストリア男性と結婚すれば，そうだ。八年働くと労働許可証が交付される。東欧女性がオーストリア人と結婚する。経済的結婚だ。

九〇年代に，ベルリン市には一五％の外国人が住んだ。大都会には外国人は多い。イギリス，フランス，ベネルックス，ドイツ，オーストリアでは，平均して五％である。ただし短期労働者，ヤミ労働者は含まれていない。フランスでは外国人が六・八％で，外国人労働者が一六五万人，ドイツは外国人が七・二％で，一八二万人が外国人労働者，一九八二年西ドイツで，外国人が四七〇万で，総人口の七％となった。スイスは一四・六％の外国人がいて，五五万人が外国人労働者である。ヨーロッパ全体で一九八二年に一五〇〇万の外国人がいる。日本には九〇年代に，外国人は一五〇万人が働いていて，比率はまだ少ない。

1－1－8．195ページ。

イスラーム諸国は，国際連合を敵対的とみている。国際連合の安保理事会は，ほとんどキリスト教国である。一九七八年に世界のカトリックは九億人しかいない。近代史を，キリスト教諸国がイスラーム諸国を攻める歴史と見ることもできる。

1－1－9．198ページ　5行

日本の軍需産業会社の主なものは，佐世保重工，三菱重工，日産自動車，川崎重工，石川島播磨重工，日立金属，ダイキン工業，東芝，小松製作所，東洋炭素などである。三菱重工は日本の軍需産業の大部分を握っている。

1－2．了承なしに，変更・削除されたもの

1－2－1．16ページ　8行。ロックフェラー財閥やカーネギー財閥は，ユダヤ系だという（副島）。

1－2－2．16ページ　11行。ファルケンシュタイン家もユダヤ系である。

1－2－3．16ページ　15行

彼らは，モルガン，ロックフェラーの会社に属している(1)。

(1)　広瀬『億万長者はハリウッドを殺す』下，巻末表を見よ。

1－2－4．25ページ　6行　ジェット機はいまも日本では作れない。

1－2－5．25ページ　11行　スペース・シャトルである。

1－2－6．26ページ　13行　アメリカはすでにその時，宇宙産業に移っていた。

1－2－7．32ページ　4行　と言える｛私は書いていない。｝

1－2－8．　同　　5行　と言える｛私は書いていない。この問題については，参考，拙書『学生と社会人のための文章読本』丘書房，第2版。｝

1－2－9．32ページ　4行。十字軍は鎧の下に，どす黒い欲望を秘めていた。

1－2－10．32ページ　15行。二〇世紀からは，侵略のスローガンは，キリスト教に代わって，自由や民主主義になる。

1－2－11．35ページ　2行。と言える［私は書いていない］

1－2－12．35ページ　4行。これがもし勝利したら，日本も重商主義国になっていただろう。

1－2－13．37ページ　7行。とは言えない　←― 私は，「ではない」と書いた。

1－2－14．37ページ　16行。銀行　←― 商会

1－2－15．39ページ　3行　と言える［私は書いていない］

1－2－16．40ページ　8行。が並存していたのである。　←― は並存できるものである。

1－2－17．41ページ　4行

一九世紀のイギリスは世界最大の植民地帝国であった。それにロスチャイルドが関係していた。　←― 一九世紀イギリスは海賊帝国であった。それをロス

チャイルドが支配していた。

1－2－18. 46ページ　14行。欧米帝国主義者は，自分たちを余り自慢できない。

1－2－19. 50ページ　6行。鉄道を利用して，　←―― 鉄道と結託して，

1－2－20. 50ページ　17行。を支配した。←―― を造った。

1－2－21. 51ページ　2行。「メリル・リンチ」を造った。

1－2－22. 52ページ　10行。戦争をせよと主張した。

1－2－23. 69ページ　11行。それを財界が支えた。

1－2－24. 78ページ　18行。ディスコント銀行はロスチャイルドの銀行だった。

1－2－25. 91ページ　12から13行。
これで一二万以上の死者が出たとされる。　←―― これで3万6千人が殺された。

1－2－26. 98ページ　1行。
一三〇億ドルの資金を援助したものである。　←―― 二二四億ドルの資金を援助したもので，このうちアメリカは一九三億ドルであった。

1－2－27. 98ページ　12行。反共産主義の人物　←―― 反共一本槍の人

1－2－28. 99ページ　2行。統制　←― 非民主化

1－2－29. 100ページ　8行。裁判にかけられ　←― 無実の罪で裁判にかけられ

1－2－30. 101ページ　4行。という「バルフォア宣言」を出していた。←― と出鱈目な約束をしていた。

1－2－31. 105ページ　17行。ドイツ敗戦によって　←― 敗戦で，ドイツに対して全ヨーロッパのユダヤ人が立ち上った。

1－2－32. 110ページ　10行。

北朝鮮を作った金日成（1912－94）は，ソ連のあやつりであった。抗日ゲリラ戦の英雄・金日成とは別人であって，彼はその名をかすめとった。

1－2－33. 111ページ　3行。この国は政府と財閥が強く結び付いている。

1－2－34. 117ページ　7行。

彼はその直前，USスティール社から鉄鋼値上げを申し出られ，それに反対した。だが鉄鋼業界は値上げに踏み切った。ケネディは，それそれに反対し，今後，国防省から注文は行なわないと演説した。それで鉄鋼業界は値上げをやめた。そのころケネディは暗殺の危険を知った。

1－2－35. 119ページ　10－11行。これはアメリカによる作為的な事件であったと言われる。　←― これはでっちあげだった。

1－2－36. 120ページ　8行。戦争勢力が犯人かもしれない。

1－2－37. 121ページ　7行。これは根も葉もない作り事であった。

1－2－38. 121ページ　12行。
ヴェトナム戦争が始まって，ヴェトナムでは米兵むけ売春婦，ストリッパーが激増した。その後米兵の性道徳感は地に落ちていった。とてつもない数でホモがふえ，エイズ伝幡のもとになった。ただしアメリカにエイズが初めて出現したと分かったのは，八一年であり，八五年から急上昇するのだ。

1－2－39. 123ページ　2行。それに，アルジェリア革命の根源がナセルにあると思ったのだ。

1－2－40. 124ページ　6行。これはCIAが画策したと言われる。 ←― これをCIAが画策した。

1－2－41. 127ページ　3行。これをきっかけにして，ユーロ・コミュニズムの有名な「歴史的妥協」が発生することになる。

1－2－42. 127ページ　7行。他国も同じだとすれば，世界に戦争も軍隊もなければ，石油は半分で済むのである。

1－2－43. 130ページ　3行。一九五七年秋から冬にかけて，ソ連のチェリャビンスク四〇番地で大量の放射能をまき散らす大爆発が起こったと，メドヴェデフは推測する。

1－2－44. 130ページ　14行。中国はこれに反対した。 ←― 中国は反対した。日本共産党も反対したが，あやまりであったとされる。

1－2－45. 131ページ　12。一方，一九八九年一月四日に，米はリビア軍機

を撃墜した。

1－2－46. 134ページ　15。

その国はチェース・マンハッタン銀行，シティ銀行（ともに，ロックフェラー系）から借款をした。アラブの預金の八割が二つの銀行に入った。

1－2－47. 135ページ　2行。

戦争によって利得がえられればよいというポジショニングであるのか。←

戦争で大量殺人が行われても，儲ればよい。

［私はこんな文章は書かない。まず「ポジショニング」というような英語は書かない。英語で書いたら，理解する読者数が減る。つぎに，随筆ではないから，疑問文は書かない。書く場合は，引き続いて解答を書いている。参考，拙書『学生と社会人のための文章読本』丘書房，第2版。］

1－2－48. 135ページ　3行。イギリスとドイツの銀行がペルシャ産業銀行をつくり，これが一九一二年，アングロ・イラン石油を支配した。

1－2－49. 135ページ　12行。ナショナル・イラニアン石油は，売り上げをチェース・マンハッタン銀行（ロックフェラー系）に預金した。サウジ，クエート，イラク，イランは，アメリカの属国であった。中東の石油の半分は，モルガンとロックフェラーに入った。いわゆるオイル・ダラー，つまり石油・ドルは，二つの財閥の銀行に預金された。

1－2－50. 135ページ　13行。イラン政府はアメリカでの預金を引き出すと声明した。アメリカはイランの預金の払い出しを停止すると言った。すでにイランのアメリカ石油会社はいつでも接収される状態にあった。これを恐れてアメリカはイラクをそそのかして，イランへ戦争を仕掛けさせた。

1－2－51. 136ページ　17行。イラン・イラク戦争でフセインは二〇兆円の軍備を使った。正確に言えば，欧米によって戦争をさせられ，軍需品を使わせられた。一方，イランのホメイニにアメリカとイスラエルの武器が送り込まれた。これは東欧の改革の直後であった，つまり軍需産業が壊滅的となった後，起こされた。全世界に兵器を輸出してきた米・欧・ソは困った。兵器輸　出は一九八九年に米二〇億ドル，仏一五億ドル，英一〇億ドルであった。東欧改革が起きて平和が訪れると，軍需産業は儲からないのであり，そのために戦争は必要であった。

1－2－52. 137ページ　3行。武器購入借金があった。←― 武器購入借金があった。それにサダム・フセインは奇妙なことに，アラブを助けイスラエルや欧米に反対すると言いながら，アラブに，つまりイランや，後にクエートに戦争を仕掛けている。

1－2－53. 138ページ　15行。CNNはタイム社であり，モルガン系である。

1－2－54. 141ページ　4行。彼は，“パナマはアメリカの州だ”と言う。

1－2－55. 140ページ　15行。モサドの資金をアメリカン・エキスプレスが出した。これはロスチャイルド支配の会社であり，その重役はキッシンジャーであった。

1－2－56. 144ページ　1行。中国人民は一一億人で，そのうち二億五千万人が文盲（中国共産党の発表）である。中国はカオス的で，まだ近代がやってきていない。従って天安門事件は成功しなかった。

1－2－57. 144ページ　2行。中国行政は，コネと賄賂がまかりとおっている。

1－2－58. 144ページ　15行。アメリカは，七〇年三月に，ロン・ノルにクーデターを起こさせ，南ベトナムとともに政権を倒した。

1－2－59. 147ページ　2行。まるで王朝支配である。

1－2－60. 147ページ　6行。賄賂が横行していた北朝鮮では，その後賄賂行政が一層進んだ。

1－2－61. 147ページ　9行。在日韓国朝鮮人は六四万五千人で，朝鮮総連の人々が多額のお金を北朝鮮に送っている。金正日は，軍事化によるおどしで，アメリカから援助をかすめ取っている。

1－2－62. 149ページ　8行。これは日本より政治水準が高いことをしめした。

1－2－63. 154ページ　1行。チェルノブィリは，今までの核実験すべての放射能の合計つまり約一千発に匹敵し，

1－2－64. 156ページ　2行。レーニンとトロツキーによって起こされたものだが，　←― 主観的にはレーニンとトロツキーが良かれと思って起こしたが，

1－2－65. 156ページ　15行。少なくとも，革命経験のない第二世代になれば，考えが変わる。

1－2－66. 166ページ　4行。大富豪はスイスの銀行に預金する。全世界の独裁者，大富豪がカリブ海の無税国の島に財産をかくす。

1－2－67. 166ページ　14行。その規模は三兆ドルと言われ ←― その規模

は二兆七四〇〇億ドルで，

1－2－68．168ページ　14行。ドルを守るために三億円のドルの買い支えを行なった。 ←― ドルを守るために三億円のドルの買い支えを一日で行なった。

1－2－69．｛間違い｝169ページ　3－4行。万 ―→ 億

1－2－70．171ページ　14行。ドルを支える以外，官僚は考えない。

1－2－71．184ページ　6行。文明は東洋の方が古かった。

1－2－72．185ページ　8行。こうして社会の変革は遅れる。←― こうして社会は変革されない。

1－2－73．189ページ　8行。民間の銀行が，つまりロックフェラーやモルガンの銀行だが，

1－2－74．189ページ　3行。注。

香港の映画俳優・監督，ブルース・リー（Bruce Lee, 李小龍，1940–73）の映画は，踏みつけられた者がこらえきれずに怒りを爆発させる映画である。だから彼は，世界中の抑圧された者たちが熱狂するヒーローであり，マイノリティのヒーローであって，単なる映画スターではなかった。白人が優秀でアジアは劣っているという神話が終るころ，ブルース・リーが出てきたのだった。その人気は，アジア各地，中東，アフリカへ広がった。アメリカで黒人は熱狂した。映画は民族的階級的に見られる。ブルース・リーが，日本人を，白人を倒す時，第三世界では善が悪を倒すと見る。白人はただ善が悪を倒すとみるだけで，中国人が白人をやっつけるとは見ない。

1－2－75. 197ページ　16行。結城提供｛結城とは，本学の結城先生である。｝

1－2－76. 198ページ　11行。GEは全軍需の六割を占める。アメリカではカーネギー（モルガンと提携）が兵器の生産をする。U. S. スティール（モルガン系）が兵器を国防省に納める。

1－2－77. 199ページ　13行。

ロスチャイルド資本である。ここから原子力産業に突進した。核兵器開発の中枢機関はイスラエルのワイツマン研究所である。国際原子力機関（IAEA）の支配者はゴールトシュミットである。

1－2－78. 230ページ　9行。

グローバル資本主義が良いものかどうか。何かよいもののように思われているが，まず，これは善悪の問題ではない。そして次ぎに，これは世界の人類の諸困難を作っている。

これら以外にもまだあるかもしれない。探しきれていない。本書から除かれたのは，出版社の方針ではなく校正担当者個人による，とのことであった。

1－3．一般的に

表紙，目次，キャプション，参考文献表は，出版社がつけた。これらは結構なものだが，参考文献表は，減らすはずが増えてしまった。それに，大塚久雄の書の，「下」は，もちろん存在しない。

2．本書の前後

2－1．『信濃毎日新聞』「本の森」欄　1999年4月11日の原稿

エピローグで述べたように，その記事は以下である。

「ハプスブルク帝国に似ているEU」

今年一九九九年一月から，EU（欧州連合）は，その統一通貨ユーロを発行することになった。

第一次大戦のころ，ヨーロッパ社会民主主義運動の中で，「ヨーロッパ合衆国」のスローガンが上げられたことがある。また，ドイツのF・ナウマンは，ドイツとオーストリアの経済同盟として中央ヨーロッパ論を出した。第一次大戦と第二次大戦の間には，オーストリアのリヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギー伯爵が，「パン（＝汎）・ヨーロッパ」思想を唱え，その運動を始めた。しかしこれは潰された。

第二次大戦後には，一九五一年に欧州石炭鉄鋼共同体ができ，これが一九五七年にEEC（ヨーロッパ経済共同体）となった。そこで，リヒャルト・クーデンホーフ・カレルギー伯はEECの生みの親と言われるようになった。彼の著作は，『クーデンホーフ・カレルギー全集』として出ている。さて，彼の母が，日本人であって，光子という名であった。そのため彼女は，「EECの母」と言われた。光子について，木村 毅『クーデンホーフ光子伝』がある。光子は，当時ハプスブルク帝国のこの伯爵家に嫁し，リヒャルト以下，多くの子どもを育てたのであった。（以上の本は，品切れ）

このEECは，アメリカ経済圏に対抗する意味があった。これがEC（ヨーロッパ共同体）となり，今度は，一九九三年に発効したマーストリヒト条約によって，EU（欧州連合）が誕生した。

EU＝欧州連合は，オーストリアが主人国であった昔のハプスブルク帝国（第一次大戦で滅亡）によく似ている。ハプスブルク帝国は，多民族国家を統合していた広大な帝国であったからである。ハプスブルク帝国については，テイラー『ハプスブルク帝国』（筑摩書房）が出るころからブームになり，今も続いている。そして名著が2冊出た。まず，ショルスキの『世紀末ウィーン』（岩波書店）は，ハプスブルクの文化，絵画，建築を，深く研究している。次に，ジョンストンの『ウィーン精神』2冊本（みすず書房）は，ハプスブルクの社会と思想史の広い豊かな研究をしている。さらに日本人研究者たちが個別研究を

しはじめた。また，オーストリア建国千年を記念して，展示会が日本中で開かれたので，見た人々も多いことであろう。

オーストリアがEUに入ったのは，一九九五年だが，そのすぐ前の，オーストリアやウィーンの社会，そして人々の生活を，私は『ウィーンの森の物語』（NHKブックス）で，すでに描いた。また，『オーストリア』（早稲田大学出版部）の一章では，ＥＵとオーストリア経済についても，少し論じている。一九九五年から，EUの加盟国は一五ケ国となって，現在に続いている。ＥＵは，欧州統一市場であり，広域関税同盟である。一九九三年に，EUの国内総生産額はアメリカ合衆国よりも一〇％も多い。

今年発行された欧州単一通貨ユーロは，また大きな意味がある。加盟国で自国通貨とユーロが併用される。こうしてヨーロッパ諸国の経済はより一層密接に結び付くことになった。それだけではない，アメリカ・ドルに並ぶ，巨大な基軸通貨ユーロが誕生したのである。ただしＥＵに加盟しているイギリスとデンマークなどは，まだユーロ通貨圏には入っていない。それにユーロは，まだ大量の金額の決裁にしか使われない。しかし数年後，我々がヨーロッパに行ったら，買物でも日常生活でも，ユーロで生活し，日本の企業は貿易の決済をユーロですることになるだろう。現在は，ユーロの価値はほぼアメリカ・ドルと同じ程度である。日本も，もしアジア通貨圏を作れば，今のようにアメリカに儲けられることが少なくなる。」

２－２．『緑丘』にのせたもの

『グローバル資本主義の物語』

小生は，今年二〇〇〇年三月に，著書『グローバル資本主義の物語』を，日本放送出版協会からNHKブックスとして，出版した。これを聞いて，北海道新聞のＮ記者が，わが家に来て，インタビューをした。それに対して私は，本書については次のように語った。

第一に。同じNHKブックスとして，かつて『ハプスブルク歴史物語』，『ウィーンの森の物語』を出版したが，今度の書でいわば，三部作が終わる。第一

の書は，ヨーロッパ最大の帝国，ハプスブルク帝国の歴史であった。第二の書は，その舞台となったウィーンの現在と人々である。ヨーロッパでもウィーンでも，第三世界と関わりがある。それで，今回の第三の書では，第三世界を先進国との関連で論じた。特に，第三世界によって先進国が支えられている。難民や外国労働者が先進国に押し寄せている。

第二に，ハプスブルク帝国はEUと似ているとされ，その関連で調べた。スペイン・ハプスブルク帝国の時代からEUまでを通観した。だが，それほど似ているとは思えない。

第三に，現在はアメリカ経済が世界を支配しており，EUとの関連でそれを見たが，実際は，アメリカの超巨大財閥が世界経済を支配している。

第四に，経済史的観点では，世界的覇権国が変化している。初めスペイン＝ハプスブルク，その後，オランダ，イギリス，そしてアメリカとなった。

第五に，自由競争市場と保護関税とが対抗していて，それは善悪の問題ではない。

第六に，世間で語られる疑問，戦争はどうして起きるのか，という問題にも答えようとした。

以上であるが，N記者と話をしながら気づいたことは，第一に，ハプスブルク帝国が現在のアメリカの地位を世界経済の中で持っていたこと。第二に，ハプスブルク帝国がアメリカと同じく多民族国家であることである。ただしこれらの二つの点は，意図的には本書では書かなかった。

2－3．道新記事

上のインタビューの後，それにもとづいて，『北海道新聞』2000年4月8日，朝刊，小樽版に，記事として出た。

「南北問題などの現代の国債経済動向を分析した論文「グローバル資本主義の物語」を，日本放送出版会から三月下旬に出版した小樽商大の倉田　稔教授（五八）は「次は世界の文化や思想などの流れを分析する大仕事をしたい」と

意気込む。

同出版社から出した「ハプスブルク歴史物語」などに続く三部作の完結編で，資本主義の誕生から現代まで，世界を制覇した国々の歩みを分析した。研究過程で「現在の米国の世界支配は歴史上最強」と気付いたという。(後略)」

3．付け加えたいもの

3－1．ユダヤ人陰謀説

最近，ユダヤ人陰謀説が出ている。尤も，これはヒトラー以来そうでもある。ユダヤ人が世界征服 —— 特に経済的に —— を狙っているというものである。これは結論から言えば，為にする議論で，事実上間違いである。本書でも述べたように，超巨大財閥が世界の経済的征服を考えている，と言うことはできる。超巨大財閥にはロスチャイルドが入るし，巨大財閥や財閥には，ユダヤ人資本家もある。すべてのユダヤ人がとりわけ金持ちなのでもない。経済的には彼らは普通の民族とほとんど変わらない。それではユダヤ財閥が世界を経済的に支配したいと考えているというのだろうか。いや，これはユダヤ財閥に限らない。アメリカ，ヨーロッパの非ユダヤ財閥は考える。というわけで，世界経済支配を望むのは，財閥，巨大財閥，超巨大財閥であり，ユダヤ人が考えているわけではない。ユダヤ財閥もユダヤ人として考えているのではなく，財閥として考えるのである。

3－2．後進国の資本主義発展

先進資本主義国，欧米日以外で，後進諸国が資本主義発展を行なえないか，という問題がある。そうでもない。帝国主義国，新帝国主義，そして日本は，先進資本主義国であった。だがアジア NIEs のような諸国が先進資本主義的に発展できるか，の問題である。

先進資本主義と同じようになるために，その国が世界市場で広い市場を持つか，あるいは国内で豊かな市場を持つかの必要がある。後者について論ずれば，

そのためには，農民解放＝土地改革がされている必要がある。土地改革がされていない諸国は農民＝民衆が貧困である。また多くは貧富の差が極端に大きい。国民の圧倒的多数が貧困であれば，国内市場は豊かにならない。だから資本主義が順調に発展しない。

その点で，韓国では先進資本主義的発展は可能である。香港はすでにほぼ先進資本主義である。ここは行政的には農村部を持たない。中国側に工場地帯を持っている。そして香港はほとんど都会である。イギリスに租界地として与えられたことが幸いした。中国に返還されたが，中国は香港の資本主義発展をつぶせない。フィリピンはまだ無理である。土地改革がされていないからである。シンガポールは，都市部では先進資本主義的である。

前者，国際市場に広い販路を持つ国々について。広い世界市場を持っているのは，石油産出国であろう。これは国民の一部は豊かになれる。しかし圧倒的多数の国民が豊かになれるかどうかとは関係がない。

3－3．三浦綾子

小説家・三浦綾子の父は言った，「貧乏人は金持ほど人に迷惑をかけてはいない」。そこで三浦綾子は考えた，「金持ちが迷惑をもたらす事件にだけは，目を光らせていなければならぬ」と（『忘れえぬ言葉』小学館文庫　175ページ）。私もそのつもりで本書を書いた。

3－4．広瀬隆

広瀬隆は，『アメリカの経済支配者たち』（集英社 1999年）のあとがき（254ページ）で，現代の詩のような発言をしている。抜粋してみたい。

……財閥の資産を詳細に調査し，その一族の財産の増加率と現在価値を探り当て，投資原理に気づいたとしても，いつまでたっても庶民の資産は増えないのである。

なぜかと言えば，われわれ庶民は幸いにも，財閥と成金の領域に足を踏み入

れていないからである。庶民は，財閥でも成金でもないので，生まれつき，こうした比較をする必要がない。……

われわれは，金を忘れて，まったく別の豊かな人生を歩むということが許されている。神はわれわれ庶民に，最大の力を与えてくれたのだ。それは古来，知恵と呼ばれてきた。

4．訂　　正

北海道経済学史研究会（2000年5月）での指摘に基づく訂正（主に，川久保氏による）。

4ページ　8行　人類の　→　近・現代の人類の

32ページ　12行　南アメリカ大陸　→　カリブ海の島

32ページ　12行　そこで　→　南アメリカ大陸で

45ページ　最終行［自由競走……のまえに，挿入］近代帝国主義の時代では，

205ページ　5行　貨幣経済　→　商品⟷貨幣・経済

230ページ　8行　これを　→　経済法則を